第２章　山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク再認定

「ユネスコ世界ジオパーク」とは、地球科学的意義のあるサイトや景観が保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理された、１つにまとまったエリアです。ジオパークでは、貴重で美しい地質や地形を含めた自然遺産を保全するとともに、**ジオツーリズム＊**を通じて地球科学の普及や環境教育等を行い、さらにこれらの遺産を観光資源として活用して地域社会の活性化を目指す取組を行っています。

山陰海岸ジオパークは、山陰海岸国立公園を中心に府（京丹後市）、兵庫県（豊岡市・香美町・新温泉町）、鳥取県（岩美町・鳥取市）の３府県６市町において、日本列島がユーラシア大陸の一部であった時代から今日に至るまでの経過が確認できる貴重な海岸を有しており、平成 22 年に初めて「世界ジオパーク」に認定されました。ユネスコ世界再認定審査は４年ごとに実施され、３回目の審査となる令和４年 12 月に２年間の条件付き再認定（イエローカード）となりましたが、令和６年７月にユネスコによる現地審査及び書面審査を受け、同年９月に再認定（グリーンカード）されました。

図１－２－１
山陰海岸ジオパークエリア

表１－２－１
山陰海岸ジオパークの概要

エリア	【京都府】京丹後市、【兵庫県】豊岡市・香美町・新温泉町、【鳥取県】岩美町・鳥取市
面　積	2458.44 ㎢
距　離	東西約 120 ㎞
特　徴	日本列島がユーラシア大陸の一部であった時代からの経過が確認できる貴重な地域
目　標	地域住民、行政、民間企業が協働して、山陰海岸の優れた地質遺産を保全するとともに、地域の歴史文化資源を活用して特徴的で魅力的なジオツーリズムを展開することで、自然環境の保全、教育の振興、広域観光の振興等持続可能な地域社会の発展を目指す
テーマ	「日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし」
認定された年	日本ジオパーク：平成 20 年 世界ジオパーク：平成 22 年
審査の状況 （世界審査）	（前回）令和４年→イエローカード（２年間の条件付き再認定） （今回）令和６年７月現地審査、９月結果公表→グリーンカード（再認定（４年間））

１　再認定（グリーンカード）に向けた取組

(1) 前回再認定審査における指摘事項と対応

前回（令和４年 12 月）ユネスコ世界再認定審査では、玄武洞ジオサイト（豊岡市）周辺での地質物品の販売中止や、主要なステークホルダー（関係者）とのパートナーシップ関係の強化、ジオパーク運営組織の独立性の強化、ネットワーク活動の積極化、ユネスコ世界ジオパークの認知度向上等が指摘事項として挙げられました。指摘事項に対し、山陰海岸ジオパーク推進協議会では、ユネスコ世界ジオパークの認知度向上のためのデジタルサイネージを設置するなど、改善に向けた取組を進め、特に、玄武洞ジオサイト周辺での地質物品の販売については、山陰海岸ジオ

パーク推進協議会と関係市が、販売事業者との対話を継続し、地質物品に代わる商品（レプリカ）の開発支援をはじめ、販売中止に向けた取組を推進しています。

【山陰海岸ジオパーク推進協議会とは】

関係府県（府、兵庫県、鳥取県）、関係市町（京丹後市、豊岡市、鳥取市、香美町、新温泉町、岩美町）、各地域の観光協会や商工会等 37 団体で構成する運営組織。

(2) 山陰海岸ジオパーク推進協議会の取組

ア　保護・保全活動の推進

山陰海岸ジオパークの地質資源の保護・保全活動の推進のため、モニタリング調査や保護活動の支援等を実施しています。

イ　教育・調査研究の推進

ジオパークを活用した教育・調査研究を推進するために、ジオパークに係る学術研究の支援や、小中学生を対象とした自由研究コンテスト、専門員派遣による出前授業等の取組を進めています。

ウ　産業振興・ツーリズムの推進

地域資源を活用した新商品・サービスの開発等のビジネス創出支援や、ジオパークトレイルを活用したイベントの開催、ツーリズム EXPO（PR キャンペーンへの参加）への出展、ジオパークガイドの養成等を行っています。

エ　ネットワーク活動の推進

当該協議会職員の世界ジオパークネットワーク（GGN）の国際会議への出席・交流や、日本ジオパークネットワーク（JGN）の総会・研修会等への参加、地元の高校生による日本ジオパーク全国大会への参加や海外のジオパーク訪問等、積極的な他のジオパークとの交流及び情報交換を実施しています。

オ　情報発信の推進等

推進協議会の HP や SNS 等を通じた情報発信を継続して実施するほか、拠点施設 7 カ所（山陰海岸ジオパーク京丹後市情報センター（道の駅てんきてんき丹後）を含む）に共通のジオパークコーナーとしてのデジタルサイネージを設置し、ユネスコ理念や国内外ジオパークの発信に努めています。

(3) 府の取組

ア　山陰海岸ジオパークをテーマとした教育旅行の誘致

京都府観光連盟と連携し、「もうひとつの京都教育プログラム」として、山陰海岸ジオパークをテーマとし、環境保全の重要性や大地の成り立ちと恵みを学ぶ教育旅行の誘致に取り組んでいます。

イ　ジオサイト周辺の園地等の整備

ジオサイト（ジオパーク内の見どころとなる場所）周辺にある園地やキャンプ場のテントサイトや照明設備の改修、トイレの洋式化、遊歩道の改修等、利用環境の整備を実施しています。

ウ　ジオサイトの保全・情報発信拠点の整備支援

京丹後市で実施されている大成古墳群の環境整備や山陰海岸ジオパーク京丹後市情報センター（道の駅てんきてんき丹後）の展示品の整備等への支援をしています。

写真１－２－１

大成古墳群

エ　関西広域連合と連携した取組「京都府自然体験教室」

関西広域連合主催の環境学習事業として、関西圏の小学生から大人まで幅広い人を対象に、京丹後市内のジオサイト「大成古墳群」、「立岩」、「琴引浜」の見学や「鳴き砂体験」を実施し、山陰海岸ジオパークの魅力を体感する機会を提供しています。

２　ユネスコ世界ジオパーク再認定審査

現地審査は、令和６年７月６日（土）から 10 日（水）の５日間に渡って実施され、府内では、「郷村（ごうむら）断層」（京丹後市）が審査場所となりました。

郷村断層では、山陰海岸ジオパーク専門員や京丹後市教育委員会職員等が、「北丹後地震」の被害や活断層の特徴、防災教育の取組について説明しました。特に、京丹後市のジオパークを活用した小学生理科体験活動プログラム「大地の学習」の取組に対して、審査員から高い評価をいただきました。

次回の再認定審査は、４年後の令和 10 年ですが、引き続きユネスコ世界ジオパークの再認定を受けられるよう、山陰海岸ジオパーク推進協議会や京丹後市、地元の団体等と連携・協力しながら、ジオパークに係る取組を推進し、持続可能な地域の活性化に努めます。

参考：現地審査が行われたジオサイト等について

＜郷村断層＞

北丹後地震は、昭和２年３月７日に発生した地震です。震源は、京都府丹後半島北部で、M7.3 の大きな地震でした。京都府北部と兵庫県豊岡市で震度６を記録し、地震発生時刻が早春の夕刻だったため、暖房や炊事の火を原因とする火災が各所で発生しました。

なかでも被害が集中したのは、今の京丹後市峰山町及び網野町で、家屋の全壊全焼率が 60%を超える地区もありました。

この地震の震源断層となった郷村断層は、地震直後に科学的調査が行われ、郷村断層に関する論文の中で初めて「活断層」という言葉が使われました。

＜ジオパークを活用した小学生理科体験活動プログラム「大地の学習」＞

京丹後市では、市内の全小学校の６年生を対象に、郷村断層をはじめとする地域資源を活かしたフィールドワークを通じて、地形と地質、鳴き砂と海の環境保護、断層と地震等について学習する取組を実施しています。

図１－２－２　「大地の学習」ハンドブック（抜粋）